

【今回の参考書籍】

下垣仁志『歴史文化ライブラリー616 前方後円墳』吉川弘文館 2025

<目次>

前方後円墳はなぜ造られたのかープロローグ

前方後円墳の世界 → 今回の紹介範囲

歴史的意義を求めて

装置としての前方後円墳

階層秩序を探る

被葬者は誰か

前方後円墳なかりせばーエピローグ

1. 前方後円墳の世界

○日本列島の古墳の数

…約 16 万基というが(文化庁集計数)、詳細な実数は不明。消失した古墳の数を推定する研究があり、実際に造営された古墳は横穴墓を含めて 50 万基を超える可能性もある。

※世界的に特異というほどの量ではない。

○前方後円墳の数

…『前方後円墳集成』全6冊(近藤編 1991-2000)によると 4700 基余り。

○岐阜の場合

…古墳・横穴墓 5218 基。うち、前方後円墳 56 基。前方後方墳 14 基。

(畿内でない地区としては多い方)

○古墳の規模の格差

…時期によって規模感が変動するので、何メートル以上が大型、という厳密な定義はできない。90-100m前後がひとつの目安になるという。また、200m前後でも様相が変わる。

→鎧塚の 82mは、小さくはないが「大型」といえるほどではない。

○前方後円墳の時代

…一般に奈良の箸墓古墳(築造 241~260 年ころ)を画期とし、古墳時代の開始とする。

ただしそれ以前にも前方後円墳は確認されており、古墳早期と呼称することも増えてきた。

箸墓古墳以後に限っても、前方後円墳が造営された期間は 400 年近くになる。

【古墳時代区分目安】

- 2 世紀中ごろ～3 世紀第 2 四半期ころ：弥生末期
- 3 世紀中ごろ～3 世紀第 4 四半期ころ：古墳前期前半
- 4 世紀第 1 四半期～4 世紀第 4 四半期ころ：古墳前期後半
- 4 世紀第 4 四半期～5 世紀第 3 四半期ころ：古墳中期
- 5 世紀第 4 四半期～6 世紀第 4 四半期ころ：古墳後期

→鎧塚古墳（4 世紀後半）は、古墳時代の前期後半～中期に該当。

○社会情勢

…古墳前期後半、列島各地で有力古墳の造営があいつぎ、かつ古墳の集中域が変動。列島広域をまきこむ政治変動があったのは確実で、古墳の集中域の変動に政権交代を読み取る研究者もいる。中期になると各地の古墳群の多くが途絶し、少数の階層的な大型古墳群に整理される傾向がある。

→鎧塚は、在地の古墳か、政治変動で権力関係が整理された結果の古墳か…

○視点：古墳群

…古墳は群を構成している方が一般的。

前方後円墳を首座とする古墳群の検討＝被葬者集団の構成を究明する重要な手がかり。

→見学会で教えてもらった長良以北の 3 つの古墳群の基本情報も抑えるべきか。

※まだ読み終えていないのですが、後半の「階層秩序」のあたりは各地の古墳体制の解説もありそうです。鎧塚があったころの美濃がどういう情勢だったのか、岐阜の歴史の本も確認できると良いなと思います。

※発掘の難しさ…大学院生の時代に考古学教室にも少し出入りをしていたので、発掘調査の難しさは聞き及んでいます。掘れば何か分かるのでは…という気持ちは分かるのですが、よっぽどのことがないと難しい。そして考古学のジレンマというやつですが、「発掘＝遺跡の破壊」です。キトラ古墳の壁画のように、奇跡的に状態が良く残っていた古墳をプロが発掘して保存しても、やはり外からの手が入ると崩れてしまいます。なので、まずは周辺情報を探り、整理するところからやっていくしかないかなと思います。

…ということも考えていたので、ひとまず本の内容を紹介してみた次第です。参考になれば幸いです。